

津波警報が聞こえなかった

社会には耳の聞こえない人に限らず、障害のある人たち、在日外国人など、災害下で情報弱者となってしまう人たちがいます。防災情報はすべての人たちに正しく迅速に伝えられなければなりません。そのためにはまず、この社会には様々な背景をもった人たちがいるということを知ることから始まります。ひとりひとりが自分とは違う立場の人たちともつながると地域の絆が生まれ、災害が起きた時、身近な人の命を守ることができま



東日本大震災が起きた時、津波警報が聞こえなかったために亡くなった人たちがいた。耳の聞こえない人たちだ。ろう・難聴者は、外見は障害のない人と同じだが、警報や避難放送などの情報を得にくいいため、災害時には更に弱い立場に立たされる。

この映画の主人公の小泉正壽さんは、耳が聞こえない。自動車の整備の仕事しながら、宮城県ろうあ協会の会長を務めている。小泉さんは被災したろう者の支援や情報格差をなくそうと東奔西走する。休む暇もなく活動を続けたため、脳梗塞で倒れ、歩くことさえも困難になり、入院する。しかし、早く元気になって皆のところへ戻りたいと地道なりハビリを続け、再び会長として皆のもとへ帰ってきた。

自身も耳が聞こえない今村彩子が地震の11日後に宮城を訪れ、2年4ヶ月間かけて取材した渾身のドキュメンタリー。



映像作家 今村 彩子(いまむら あやこ)

大学在籍中にカリフォルニア州立大学ノースリッジ校に留学し、映画制作を学ぶ。二十歳からドキュメンタリーを撮り続け、全国各地で上映・講演活動を展開中。「珈琲とエンピツ」(2011)は好評で全国の劇場で公開された。

今村彩子公式サイト <http://studioaya.com>

架け橋 きこえなかった3.11 2013年／音声日本語・日本語字幕／74分

監督／今村 彩子 撮影／今村彩子・渡辺佳宏・柳喜代子・古川元・7fish 協力／全日本ろうあ連盟・日本障害フォーラム・宮城県立聴覚支援学校
後援／東京都聴覚障害者連盟 制作・著作／CS障害者放送統一機構「目で聴くテレビ」

架け橋 きこえなかった3.11公式サイト <http://studioaya.com/kakehashi>